

新聞に親しみ社会的事象を自分事として考えるために

～考えを伝え合い、学びを深める子どもの育成～

新潟市立白根小学校

1 学校の概要

新潟市立白根小学校（本多一貴校長，児童数478人）は，大風合戦で有名な白根の地域の中心にある。近くには中ノ口川が流れ，兩岸に分かれ，東軍と西軍が二十四畳の大風を揚げて，合戦を繰り広げる。そんな地域に生まれ育つ子どもたちは，素直で元気である。

学校の教育目標である「ゆたかに かしく たくましく」のもと，こころ，まなび，からだ，さばーとの4つのプロジェクトが中心となり，教育活動を推進している。教育に対する考え方が多様な地域ではあるが，地域特有の伝統行事への参加等を通して，保護者，地域との信頼関係を築いてきている。

生活科や総合的な学習の時間では，中型動物の飼育，特産物の栽培，伝統行事の継承，地域の特徴の再発見などをテーマとして学習している。それらの学習を支えているのは，地域の指導者やボランティアであり，学校，家庭，地域が一体となり，協力しながら教育に努めている。

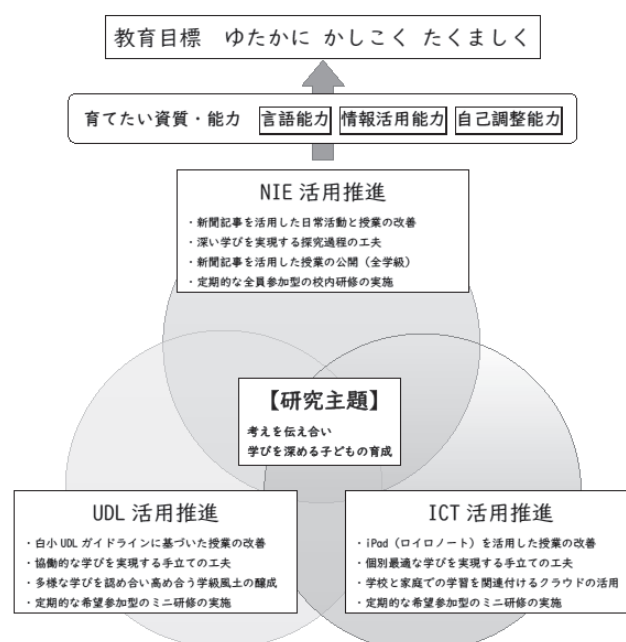
2 N I E 実践のねらい

（1）研究主題と実践の関連

本校の研究主題は，「考えを伝え合い，学びを深める子どもの育成」である。目指す姿は，子どもたちが考えを進んで伝え合うための自信をもつ姿，また，子どもたちが仲間と共に学びを深める（資質能力を身に付ける）姿である。

それを達成するために，N I E 実践では，新聞に親しみ言語や文字などの情報を活用する環境を設定する。また I C T を活用して，新聞を各教科・領域の授業で子どもたちの手元に届けたり提示したりして，自分の意見をもつための材料とする。さらに U D L の考え方をもとに，新聞を通した多様な学びが生まれるように授業や取組の枠組みを考える。

以上の校内研究の実践により，子どもたちに言語能力，情報活用能力，自己調整能力を育むことを目指している。今年度は実践指定校1年目である。まずは，子どもたちも職員も新聞に慣れ親しむことから始めていく。



（２）新聞と子どもたち

７月に実施した学校アンケートでは、「新聞を読むこと（読み聞かせ）は好きですか？」の回答結果は、全校集計で次のようであった。

1	あてはまる	22%	2	ややあてはまる	24%
3	あまりあてはまらない	26%	4	あてはまらない	28%

肯定的評価が46％，否定的評価が54％という状況であった。理由として、新聞が活字だらけ，白黒で色がない，内容が難しいなどのイメージが先行してしまっているからだを考える。そこで，新聞を読んでもみたいと思う，新聞を活用して学ぶことのよさを感じる，社会的事象を自分事として考える，そんな子どもたちに成長していけるように，実践を工夫していく必要性を強く感じた。

3 本年度実践の概要

（１）新聞に親しむ環境整備

玄関にNIEコーナーを設置して，子どもたちが新聞を自由に閲覧できるようにした。閲覧台には，子ども新聞を中心に置いたところ，立ち止まり，新聞を読んでいる様子が見られた。

また，週に1回，朝学習にNIEタイムを設定して，担任が子どもたちに新聞を読み聞かせるなど，新聞に親しむ機会を設定した。また，タブレットを使った画面配信で，手元で見られるようにした。新聞を読むことに難しさを感じながらも，興味がある記事に集中して向き合う姿が見られた。



（２）新聞を活用した授業実践

各教科，領域で新聞を活用した授業実践を行った。6月から12月を3期に分けて，つながりのある授業実践を行った。教科・領域の指定をあえてしなかったところ，国語，社会，理科，生活，図画工作，家庭，保健，外国語，道徳，学級活動，自立活動など多岐に渡る授業実践が展開された。今年度の授業実践の総数は21本となった。成果と課題の視点として，「考えを伝え合うことに対して，新聞活用はどのように効果的であったか」，「学びを深めることに対して，新聞活用はどのように効果的であったか」の2つを設定した。

各期の終わりには，授業実践の成果と課題を共有するために，校内研修を設定した。指導者には，東区教育支援センター所長の古井丸裕三先生をお招きした。一つ一つの授業実践を丁寧に意味付けしていただき，成果と課題が明確になるとともに，学びの多い有意義な研修となった。今年度のまとめとして，それぞれの授業実践を振り返り，各々がレポートを書き，省察する機会を設定した。それを集約して，今年度の研究のまとめとする。

4 実践例

(1) 1年生国語「くわしくかこう」(教材名『しらせたいな、見せたいな』) 新聞活用について

本単元では、自分の書こうとする題材に必要な観点を集めることに、児童は困難さを感じるであろうと予想される。そこで、本時ではパンダについての新聞記事を使用し、写真や記事から分かる体の様子を話し合う活動を設定する。全員が同じ新聞を見て考えることを通して、ものの観点を共有でき、また、見方にさらなる広がりが見られると考える。

授業のねらい

動物の体の特徴や様子について、新聞記事を見て気付いたことをメモし、友達と共有する活動を通して、自分が好きなものを紹介する文章を作る際に、活用する観点を増やすことができる。

成果と課題

視点1 考えを伝え合うことに対して新聞活用がどのように効果的であったか

○新聞記事に載っている赤ちゃんパンダの写真から、色や形といった特徴を見つけることができていた。また、全員が同じ記事を使って活動することで、意見を共有する際に、児童同士で他の児童との気付きの違い(色や触り心地の表現の仕方など)を感じているようだった。

△児童にとってパンダは普段から実物に触れられないものであるため、大きさや触り心地などの観点を考えづらい様子であった。資料が豊富にあること、世間の関心が高い記事であることからパンダの記事を使用した。飼育しているヤギに関する記事など、より児童の身近にあるものを扱うべきであったと考える。

視点2 学びを深めることに対して新聞活用がどのように効果的であったか

○新聞の写真を見てさらに知りたいと思ったことはあるかと問うと、歯は生えているのか、何を食べているのかなどをもっと知りたいと児童の中から意見が出てきた。その後、新聞を読むことで児童の疑問に思ったことを解決することができ、学びを深めることができた様子であった。

△新聞から気付いたことをメモしたり、知ったことを発言したりする時間を十分に設けることができなかった。新聞記事のどの部分を見たら分かるのか、見る箇所を限定し、余計な情報を減らすべきであった。



子どもの振り返り（単元を終えての振り返りにて）

- ・自分の好きな物の、色や触り心地についてたくさん書くことができた。
- ・パンダのことについて新聞を見たらよく分かった。赤ちゃんの時は体の色が違うことにびっくりした。
- ・パンダが大きくなっていくのが楽しみ。
- ・（写真を見て気付いたことを）たくさんメモをしたら、文章を書くときに書きやすかった。

（２）３年生国語「秋らしさを感じよう」（教材名『秋のくらし』）

新聞活用について

本単元では、自分たちの身近な生活で、様々な秋らしさを感じて欲しいと考え、教科書教材ではなく秋をテーマとした複数の新聞記事を用いる。新聞記事の中で、秋らしいと感じる語句や文章に線を引き、その後、あえて「一番秋らしい記事はどれか」を問い、話し合うことで、自分が感じた秋らしさ以外にも多くの秋らしさがあることに気付く機会とする。

授業のねらい

秋を感じる記事について、一番秋らしいと思う記事の根拠とその理由を伝え合うことを通して、自分が思う秋らしさがあることに気付くことができる。

成果と課題

視点１ 考えを伝え合うことに対して新聞活用がどのように効果的であったか

○一番秋らしい新聞記事はどれかという視点だったため、なぜその記事を選んだのかという思いが考えを伝え合いたいという意欲につながった。

○自分の経験や調べたことを基に理由を発表させたため、他の子が共感したりその場で iPad を用いて調べたりする姿が見られた。

△ロイロノートで提出させた。根拠に線を引いた新聞記事を生かし、発表時に子どもたちに提示して比較させながら

進められると、根拠が同じなのに理由が違ったり、理由が同じなのに根拠が違ったりと、それぞれの意見の相違点を確認することができたのではないか。



視点２ 学びを深めることに対して新聞活用がどのように効果的であったか

○事前に新聞記事の内容について調べる時間を設定したため、子どもの経験の差に関係なく、新聞記事の内容を理解し、自信をもって発表する姿が見られた。

○子ども同士の話し合いで、自分が選んでいない記事についての理由を聞き、「知らなかった。」と発言する子が多かった。知らなかったことを知れたということが学びを広げることにつながった。

△3つの記事を教材にしたが、自分が調べていない記事の話し合いでは、ついていけない子もいた。それでも、知らなかったことを知ったことが深まるとなるのか、全員が同じ土台に乗った方がいいのか、もう少し吟味する必要があったと思う。

子どもの振り返り

・わたしが最初に選んだものは、①番です。理由は、中秋の名月は、由来が秋の時期に見えると書いてあって、こういう由来なんだと思ったからです。最後に選んだのも、同じく①番です。理由は、中秋の名月の由来がびっくりしたけど、他にもお供え物や知らないことがたくさんありました。特に秋らしいと思ったのは、昔の暦で8月の満月が1番きれいとして書いてあって、その月は秋だからと思いました。わたしが他の人の意見でびっくりしたことは、台風の新聞を選んだ人が言った「うろこぐも」が秋を代表する雲だと知って驚きました。

（３）６年生体育科保健学習「病気の予防」

新聞活用について

「病気の予防」で学習する、喫煙・飲酒・薬物の依存症に関連して、ネット・ゲーム依存症について取り上げる。ネット・ゲーム依存症が自分や家族に関わる問題であることを知り、予防するためにどのような取組ができるのか、考えるための資料とする。

授業のねらい

ネット・ゲーム依存症の原因について、ゲームをする楽しさだけでなく、心の不安や自己肯定感に関係があることを知り、同じ状況下にある友達との話し合いを通して、依存症を予防するための取組を考えることができる。

成果と課題

視点１ 考えを伝え合うことに対して新聞活用がどのように効果的であったか

○ネット・ゲーム依存症という病気があることや、依存症が自分や家族に与える影響や害について知ることができた。

○同じような年代の子が、ゲーム依存症になり、医療センターでどのような治療を行っているのか、自分事として考えることができた。

○個人で考えることが難しい児童も、新聞の記事を参考にしてどんな取組をするとういかに考えるヒントになった。

△新聞記事の文章量が多いため、必要な部分のみ示すようにすると分かりやすく、詳しく記事の内容を読み取ることができたのではないかと思う。

視点2 学びを深めることに対して新聞活用がどのように効果的であったか

○新聞記事の記載を参考にしながら、自分の考えをもつことができた。

○新聞記事に書かれてある取組や話合いで出された取組の良さを理由付けすることで、取組の良さに納得・共感し、全体に発表することができた。

○振り返りでは、他のグループで発表された取組を参考にして、今後の自分の取組にも取り入れようとする姿が見られた。

△新聞記事の内容について感想を伝え

合ったり、グループでの話し合いで記事の内容に触れたりする時間を取ると、さらに必要な取組について考えが深まったのではないかと思います。



子どもの振り返り

・ゲーム以外の違う趣味を見付けたり、遊ぶ前に友達と何時までやるかを決めたり、休憩はいつにするかなどを話し合ったりしてから遊ぶようにしたい。授業でゲーム依存症の危険性について学んだので、これから気を付けていきたい。

・ゲーム依存症は頭では分かっているがなかなかやめられないと思うので、友達と声を掛け合うのは大切だと思った。ゲームはやっていて楽しいし、私も好きだけど、やりすぎは「だめだな。」と思った。

5 成果と課題

N I E 実践に継続的に取り組んできたことで、以下のような成果が見られた。11月に実施した学校アンケートでは、「新聞を読むこと（読み聞かせ）は好きですか？」の回答結果は、全校集計で次のようであった。

1	あてはまる	33%	2	ややあてはまる	26%
3	あまりあてはまらない	22%	4	あてはまらない	19%

肯定的評価が59%、否定的評価が41%という状況であった。各実践を通して、子どもたちが新聞に親しむ中で、新聞に対するイメージが緩やかに変化し始めたからだと考える。社会的事象を自分事として考えるための第一歩である。

授業での新聞活用については、記事をきっかけにして課題意識をもつこと、考えや視点が共有されたり広がったりすること、自分はどうすればいいか、新しい考えを生み出すことなどに効果的であった。一方、記事に対する子どもの認識の土台をそろえるために、教師と子どもの認識の違いを埋めるためには、どのような手立てを工夫していけばいいのかという課題が残った。1年目の成果と課題をもとに、2年目もN I E 実践に取り組んでいく。

(高橋 健一)